



祇園祭

後祭を楽しむ

7月、京都の夏の風物詩「祇園祭」が始まります。千百年余の歴史を持つ有名な行事ですが、皆さんは時間をかけて山鉾を見てまわったことはありませんか？ 人混みは苦手だと敬遠していたり、露店に立ち寄っただけで帰ってしまったり。今回は、山鉾の魅力じっくり堪能できる「後祭」について紹介します。(あさげ)

一. そもそも後祭とは

山鉾の巡行は、前後2つの日程に分かれて行われます(右図)。先に行われる17日までの1週間を「前祭」と呼び、23基の山鉾が参加します。これに対し24日までの1週間が「後祭」で、10基の山鉾が参加します。

最近まで、この2度の巡行が17日に合同で行われていました。祇園祭と聞いて多くの人が前祭の巡行を思い浮かべるのはこのためです。2014年以降は後祭単独の巡行が復活しており、前祭と後祭でそれぞれ違った楽しみ方ができるようになりました。

7月						
月	火	水	木	金	土	日
11	12	13	14	15	16	17
山鉾建て		宵山期間			巡行	
前祭						
18	19	20	21	22	23	24
山鉾建て		宵山期間			巡行	
後祭						

▲山鉾建てから巡行までの日程。山鉾建ての日程は山鉾の場所によって異なる

二. 山鉾を見るなら後祭

山鉾を見ることができるのは山鉾建てから巡行当日までです。特に宵山期間中は山鉾や装飾品も展示されるほか、駒形提灯に明かりがともされて美しい夜景が広がります。

前祭期間は一帯が歩行者天国となり、通りには露店が立ち並びます。山鉾の建つ町内やその付近が歩行者で溢れかえり、人混みの中では前に進むこともままなりません。

一方、後祭期間は人出が比較的少なく、混雑を避けて山鉾を巡ることができます。また前祭と違って宵山期間に露店が出ていないため、静かで落ち着いた雰囲気の中じっくりと鑑賞できます。



▲後祭は露店が出ておらず、前祭に比べ混雑が緩和されているため歩きやすくなっている

三. 山鉾の魅力を味わう

後祭で山鉾を巡るなら、ここをぜひ見てほしいという見どころを紹介します。「動く美術館」と呼ばれる山鉾の魅力をじっくりと感じてみてください。



▲北観音山組み立ての様子。組み立ては大工と町内の住人が力を合わせて行う

組み立て

山鉾は長い縄だけを使った「縄絡み」という手法で組み立てられます。北観音山は後祭に参加する曳山の一つで、屋根の高さは8m、最も高い部分までは20m以上あります。山鉾建ての期間には巨大な山鉾を大勢の手で組み上げていく迫力ある様子を見ることができます。



▲復元された大船鉾。屋根の塗装など完全な復元は今後数十年かけて行われる

懸装品

山鉾に付ける前懸などの装飾は懸装品と呼ばれ、巡行当日まで町内の会所で見ることができます。写真の大船鉾は幕末の大火で一度焼失しましたが、2014年に鉾が復元された際、懸装品も新調されました。宵山期間は高度な技術で復元された染織品を間近で鑑賞できます。



▲浄妙山の御神体。浄妙坊(下)が着用している黒草威は重要文化財に指定されている

御神体

山鉾にはそれぞれ御神体がまつられており、巡行の際に山鉾とともに市内を巡ります。浄妙山の御神体は筒井浄妙と一來法師の2体です。平家物語にある「宇治川の合戦」で一來法師が浄妙坊を飛び越す一瞬をとらえた躍動感のある人形組は、木の榎1本だけで支えられています。

厄除けの粽

祇園祭を訪れた多くの人が買い求める粽。和菓子の粽と勘違いしている人もいますが、この粽は飾り用で食べることができません。山鉾町内で手に入れることができ、玄関先にかけておけば一年間の厄払いになるといわれています。浄妙山では粽のストラップが販売されており、持ち物につけることもできます。



▲左：厄除けの粽/右：粽ストラップ

後祭山鉾マップ

宵山期間中の山鉾は各町内で見ることができます。下の地図では丸いアイコンが山鉾の位置を示しています。道路の交通規制があるので、見に行く際は地下鉄などを利用するとよいでしょう。

